

傳藤原佐理以肋切一

301  
10



始







やまどうたをじとの<sup>れ</sup>ころをたはと

きしよるれいよれはをうたは

よのちうにありひとよわし

しもれをれ者いんたにむし

とをみるそれさくんのうたを





いふせうはあまのしにたのこ  
いをみるすまかはつちのこ  
けきういふくせいのまわらうた  
をよるせうはちのこ  
いあわつちのこ  
みえおわらうのこ

をよるせうはちのこ  
いあわつちのこ  
みえおわらうのこ  
うたあわつちのこ  
うたあわつちのこ  
うたあわつちのこ

指











へいふをかくて我はまよめしとわ  
まうらわ...ほふをりはれは  
たかなぬ...はおほく...  
になまに...  
下た...  
ま...をわ...  
ま...

ま...のち...わ...  
ま...ま...  
ま...ま...  
ま...ま...  
ま...ま...  
ま...ま...  
ま...ま...  
ま...ま...

















あつちあめのにがのふいれちあひ  
あ、あせうとありは、いれあはす  
うらやうなまゆわうつなうらやう

うらやうなまゆわうつなうらやう  
あつちあめのにがのふいれちあひ  
あ、あせうとありは、いれあはす  
うらやうなまゆわうつなうらやう

あつちあめのにがのふいれちあひ  
あ、あせうとありは、いれあはす  
うらやうなまゆわうつなうらやう  
あつちあめのにがのふいれちあひ  
あ、あせうとありは、いれあはす  
うらやうなまゆわうつなうらやう



このうたはさうかゝるものか

あつたはさうかゝるものか

うはあめさうかゝるものか

乃のさうかゝるものか

ちさうかゝるものか

あつたはさうかゝるものか

よかちうはさうかゝるものか

あつたはさうかゝるものか

あつたはさうかゝるものか

あつたはさうかゝるものか

あつたはさうかゝるものか

あつたはさうかゝるものか

あつたはさうかゝるものか



らばよきをばしめりかきるめらるるよ

こけうたにいまぬらきまとはみさ

たもあは

春のくまわつ三ははるる

いまねらうはみさ

らねるまらうらぶつさし

よりしにやれむらには

まらなちのよ

かいらにのらはる

にあらわあだちうた

たうらぶのいぶれ

ののるんはらぬい



いふにやわてまゝにけしきをかきつゝ  
老いあつゝやうにぞとくうゝと  
しあつゝはるかにたかぢぢけ  
かよおぢらばいゝとくうゝと  
いふへのよゝのりよとくうゝと  
れあゝたゝのよゝとくうゝと

不らふしやぢぢけ  
アキをよとまゝとくうゝと  
はゝたゝとくうゝと  
ころよゝとくうゝと  
アキをよとまゝとくうゝと  
はゝたゝとくうゝと



かきしるくわんてんかちのこ  
あつてさびれけしただんほくは  
おまよるるりねこまひよらんひ  
みろほんだのいんまはあわ  
ちんをわむによろくちんをいん  
あつてしのはまをのひあつ。  
せごすこのえおまをいんあつて  
らよおなまをいんまのむらあ  
あひい下をこたろのいんまを  
いんまをいんまをいんまを  
あつてまをいんまのあつて  
いんまをいんまをいんまの  
あつてまをいんまをいんまの  
あつてまをいんまをいんまの



うみづげにえゆるはなはな  
よちぎしとてのちとほのちや  
そくわがこをとおるしあはれ  
ぬももるえちあはれ  
なひよにわびたはれちあはれ  
くわあはまはれちあはれ  
ちたりのえとてあはれはな  
まもよはれちあはれ  
そはなはれちあはれ  
うもはれちあはれ  
ちたりのえとてあはれはな  
まもよはれちあはれ  
そはなはれちあはれ  
うもはれちあはれ







15. 何れもよれたのみさ  
あまふり。伊よくもさうひげを  
るまをよすのべも赤人といふは  
あまさうあまにあま。たつた  
けわ人丸もあまのこころは  
とつても赤人も人丸もあまに

あまのこころは  
あまのこころは  
あまのこころは

龍田河紅系乱天流  
わ私あま  
者錦中や終南

人麻呂

梅を其共見  
藤方川天ぎ



る雲がたぐらふ花の香

本のと赤石の浦朝霧の香

隠れ舟をうぐせしむ

赤人

春の野をすれつたところへ

うきやううきやう一夜の夢

あつ浦にすまみくらしむる花の香

たふし葉をよほし一羽の鳥

このいと人をたふし一まきとほしむる

るよと花をよほしむる花の香

かきと花のよほしむる花の香

あつ浦にすまみくらしむる花の香

あつ浦にすまみくらしむる花の香







いづれもいづれもいづれも

浅緑糸より白露を珠

母<sup>母</sup>香<sup>香</sup>春<sup>春</sup>のま柳

蓮葉の滴は深<sup>深</sup>情<sup>情</sup>を<sup>を</sup>した<sup>した</sup>た<sup>た</sup>た

露を玉とあをむく

塔城野よりしらぬわたしが讀

たうまめ下いをいれり許がうるんぢん

曰我おしらるる人よかろな

在原の業平その心ありてこは

あつて一がめつ花のまゐらうてこが

あれらねるがごと

月やあらわ春やあつてのまらね我

方とらうは春のまらね



















うらまのたねもさうきふれさるは  
たうぐいしかのほろあやうしの  
先のたをさるきしよれとよ  
このうらまのたねもさるあやうし  
ほいとうらまのさるさよまのさる  
たうぐいさるきふれさるのさる  
ふれさるしよれさるさる

うらまのたねもさるきふれさるは  
たうぐいしかのほろあやうしの  
先のたをさるきしよれとよ  
このうらまのたねもさるあやうし  
ほいとうらまのさるさよまのさる  
たうぐいさるきふれさるのさる  
ふれさるしよれさるさる



目書（目録）の紙（紙）を焼く（焼く）を（を）米（米）と  
お茶（お茶）を（を）萬葉集（萬葉集）に（に）おね  
し（し）み（み）の（の）も（も）た（た）て（て）ま（ま）つ  
ら（ら）ま（ま）ひ（ひ）く（く）さ（さ）ぶ（ぶ）た（た）し（し）し（し）わ（わ）あ  
ま（ま）さ（さ）く（く）わ（わ）ら（ら）め（め）し（し）保（保）く（く）ま（ま）  
あ（あ）ま（ま）く（く）ま（ま）さ（さ）く（く）ゆ（ゆ）き（き）み（み）

筆（筆）を（を）ほ（ほ）く（く）め（め）に（に）そ（そ）く（く）ま（ま）つ（つ）  
振（振）も（も）ひ（ひ）人（人）を（を）い（い）ま（ま）あ（あ）り（り）ま（ま）は（は）ま（ま）な（な）ら（ら）ま（ま）  
を（を）み（み）く（く）ま（ま）つ（つ）ま（ま）り（り）ま（ま）つ（つ）ま（ま）り（り）  
た（た）ま（ま）を（を）い（い）ま（ま）あ（あ）り（り）ま（ま）は（は）ま（ま）な（な）ら（ら）ま（ま）  
ら（ら）わ（わ）く（く）ま（ま）つ（つ）ま（ま）り（り）ま（ま）つ（つ）ま（ま）り（り）  
い（い）ま（ま）あ（あ）り（り）ま（ま）は（は）ま（ま）な（な）ら（ら）ま（ま）  
わ（わ）ら（ら）ま（ま）つ（つ）ま（ま）り（り）ま（ま）つ（つ）ま（ま）り（り）



おとこ水の鏡をみるのころさこの  
おとこもあなはまはまは月夜に  
乃とくさくさししとまをたきこ  
しめさかるとかふるさびのころ  
あやぐさ若のさしこをのすけい  
ししむむしとさかのころさか  
よふこしれもかへ人のころはおそ  
うつしきやのやまをらおしき  
たか  
たかしのたちあなま  
おとこさかこのころさか  
まはりしんすの時あつ  
さるさびぬる人丸さ  
ししきのさかおとこ  
さかまはさかおとこ







終